

OCEFC NEWS

2004年 4月1日号

Vol. 18

大川こども & 内科クリニック

診療体制の変更 — 全休日午前の救急診療開始 —

現在休日の小児科診療が十分でないことが大きな社会問題となっています。OCEFC ではこれまでも月に2回程度休日診療を行ってまいりました。このたび4月より東京医科歯科大学小児科の先生方のご協力で原則として全日曜・祭日午前(9:00より12:00)の救急診療を開始します。従来どおり予約制ではなく、来院順の診療となります。休日のお子様の急病に対するOCEFC としての対応ですが、学会出張あるいは医師会の休日診療当番に当たった日は診療できません。その場合にはあらかじめ掲示

いたしますのでご了承ください。また休日しか受診できないご家庭の皆さんのために、予防接種は予約により休日接種を開始いたします。

●代診時間が水曜日午後に変更

従来水曜日午前中であった代診日が午後に変更となります。これに伴い内科診療は午後休診となります。また神経外来は土曜日午後に移動いたします。午前中は院長が小児科・内科の診療をいたします。水曜日の午後院長は東京医科歯科大学小児科で血液疾患の患者さんの診察にあたっています。

OCEFC ホームページ4月1日オープン

念願のOCEFC ホームページが開設されます。診療体制や予防接種またスタッフ紹介、OCEFC 病児保育室うさぎのママに関する情報も掲載予定です。予防接種やうさぎのママの申し込み用紙や医師連絡票などもHP からダウンロード

できます。現在流行中の疾患(インフルエンザや嘔吐下痢症等)状況もお知らせいたします。もちろんこれまでのOCEFC ニュースにもリンクできます。<http://www.ocfc.jp> です。是非アクセスしてください。

OCEFC病児保育室満員御礼

昨年11月1日開設した病児保育室は11月13名、12月21名、1月21名でしたが2月より利用者は増加し41名で利用率50%を越え、3月は連日ほぼ満室の状態です。病児保育の登録者も100名を越えています。ご利用の際は必ず事前登録されてください。

季節柄インフルエンザの患者さんの入室も増加しております。隔離室をフル稼働して院内感染を発生させないよう管理しています。これからも安全で快適な病児保育室の維持に努めますのでどうぞご利用ください。

定期予防接種の脱水銀化する

定期予防接種のうち唯一水銀が含まれていたDPT・DTのうちDPTに水銀の含まれない製剤が発売されました。OCEFC では本年1月より採用しております。この採用により

OCEFC での定期予防接種とインフルエンザワクチンでの水銀添加製剤の接種はDTを除きなくなりました。添加製剤は現在DT ワクチン、B型肝炎 ワクチン、破傷風ワクチンです。

OCFC INFORMATION

感染症 だより

今年のインフルエンザの流行は中規模

12月 はじめより診断された今年のインフルエンザ。12月 中は17症例 と少ないようでしたが、1月 は137症例 と流行が始まり、2月 初旬にピークを迎えました。2月 後半には流行は下火となり121例、3月 は1日2~3例 となりました。今年の特徴は流行が中規模であったこと、インフルエンザA型 がほとんどでB型 が少ないことがあげられます。ところで1月4日に新聞に衝撃的なニュースが伝えられました。インフルエンザ[※]の特効薬であるタミフルの乳児への使用自粛です。これは乳児での脳に対する副作用が否定しきれないためにとられた対応です。OCFC では14名の乳児のインフルエンザを診断しました。すべての方に事情を説明し、インフォームドコンセントをお取りしました。予防接種を受けられていた4名の方は治療せずに経過観察、予防接種を受けられていない乳児は10名で、いずれの方もタミフルを1~2日服用されました。すべての方は現在までなんら問題なく回復されております。

感染性胃腸炎の流行続く

感染性胃腸炎は季節に関係なく大流行のようです。11月に148名、12月はさらに増加して278名、1月、2月は落ち着き84名、80名 でした。3月に入り再び増加しはじめました。3月は乳児にロタウイルスが増えてきております。乳児には下痢止めは使用せず、整腸剤だけが原則です。抗生剤もほとんどの症例で必要ありません。

その他の感染症

麻疹は2月に成人男性に発症しましたが流行はありませんでした。水痘は特定の幼稚園・保育園を中心に小流行がみられ、12月22名、1月10名、2月4名 でした。アデノウイルス感染症も引き続き流行し、12月71名、1月22名、2月9名 でした。1月にはアデノウイルス感染症と診断した患者さんが夜間痙攣を起こされ、救急病院で髄膜炎と診断されました。ウイルスと細菌の混合感染だったと思います。病状説明とその後の経過が一致しない場合はOCFC にご連絡いただくか、夜間では救急病院に受診されてください。特に髄膜炎は急激に進行しますので、疑われる所見（嘔吐、痙攣、顔つきの悪さ等）があるときはお母さんの迅速な判断がとても大切です。

溶連菌も劣らず流行中です。12月28名、1月12名、2月14名 でした。短期間に再発する場合はインフルエンザ桿菌、肺炎球菌などとの混合感染が強く考えられます。マイコプラズマ肺炎は12月8名、1月6名、2月5名 でした。流行性耳下腺炎、伝染性紅斑、手足口病、ヘルパンギーナは期間中それぞれ6、9、1、1名 でした。

処置室 コーナー

点滴は12月31名、1月は26名、2月14名の71名の方に行いました。感染性胃腸炎での脱水および喘息発作の治療のための点滴でした。検査はインフルエンザの流行とともにインフルエンザ迅速検査が増加して12月85回、1月234回、2月213回で3月に入り減少傾向です。昨年の3分の2ぐらいです。そのほかアデノウイルス検査がそれぞれ115、44、15回、溶連菌検査が69、245、20回 ですが、溶連菌は今月に入り激増しております。

一口メモ

クループ

上気道（咽頭、喉頭）の浮腫（むくみ）による気道狭窄で呼吸困難となること。進行すると気管を切開して直接空気を肺に送り込まないと窒息する。原因病原体はジフテリアが有名だが、インフルエンザを含むウイルス感染症や細菌感染症でも起こる。

病診連携

関連病院施設にお願いした患者さんは12月 18名、1月 24名、2月 17名 の合計59名でした。そのうち検査1名、外来49名、入院19名 でした。検査紹介では片頭痛の精査のため東邦大学でMRI検査 を依頼しました。この患者さんはさらにセカンドオピニオンを求められて真田病院に紹介いたしました。入院ではマイコプラズマ、肺炎球菌を原因とする肺炎あるいは乳児の尿路感染症で、東邦大学、荏原病院、社会保険蒲田総合病院に照会しております。扁桃の著明な腫脹を示していた症例は慈恵医科大学小児科に紹介し、検査の結果リンパ腫と診断されました。幸い病期は早期で回復に向かっております。インフルエンザは小児ではクループ症状を示す人がいますが成人では稀です。1月に高熱で来院された方が急速に窒息状態となりクリニックで救急処置を行い東邦大学に緊急入院となりました。後日無事退院されましたが、処置が遅れれば不測の事態になったことでしょう。この方はクリニックにてインフルエンザによるクループ(喉頭浮腫)と診断しております。外来患者さんは今までと同じように、患者さんの希望を尊重して近隣の開業医あるいは大学病院に紹介しております。

院長のサイエンティフィックアクティビティ(Scientific activities)

12月、1月 は日本小児科医会、東京小児科医会の編集会議に参加。4月 発行の医会雑誌に感染症の迅速診断について総説を書きました。ご希望の方に別冊を進呈いたします。1月 末は特発性血小板減少症の世話人会に参加しております。4月 8、9、10、11 日岡山にて小児科学会が開かれます。その期間は代診となります。

診療時間

栄養相談の予約:代表電話で直接予約下さい。
大田区の各種健康診査は火・木・金の午後200~400にお越し下さい。検査希望の方は代表電話にて直接予約して下さい。

曜日	8:30~12:00	14:00~16:00	16:00~18:00
月	一般(小・内)	一般(小・内)	一般(小・内)
火	一般(小・内)	乳健・予接・ア・慢	一般(小・内)
水	一般(小・内)	代診(小児科)	代診(小児科)
木	一般(小・内)	乳健・予接・ア・慢	一般(小・内)
金	一般(小・内)	乳健・予接・ア・慢	一般(小・内)
土	院長・大柴*	1300~1400 乳健・予接、1400~1500 一般(小・内)	
		栄養相談 1300~1500 30分ずつ(乳幼児、生活習慣病)	

乳健：乳児健診、予接：予防接種、ア：アレルギー疾患 慢：慢性疾患
*：第2・4土曜日午前 大柴先生(アレルギー外来) 院長と併診

電話予約について

当クリニック(OCFC)では患者さんの待ち時間短縮のため予約制を採用しています。できるだけ電話にて予約を取られるようお願いいたします。空き状況をお聞きの際は、かけなおして予約をお取り下さい。予約希望時間が詰まっている時は希望時間に近い時間帯をご案内いたします。

■ サービスコード

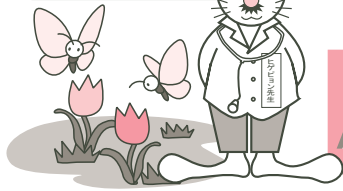
項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード
小児科一般	11#	乳幼児健診	16#	2種混合	22#	日本脳炎	28#
内科一般	12#	健康診断	17#	麻疹	23#	その他	29#
アレルギー/慢性疾患	13#	確認	20#	風疹	24#		
隔離感染症	14#	取消	30#	水痘	26#		
予防接種	15#	3種混合	21#	おたふくかぜ	27#		

予約の空き情報は40#でご案内いたします。予防接種(15#)を押した方はさらにサービスコードで希望される項目を指定して下さい。サービスコードの確認を、よろしければ0# 誤ってれば1# で行って下さい。

院内設備・機器

院内設備:隔離感染症室、電話自動予約機(24時間対応)、空気清浄装置(臓器移植にも対応できる)、オゾン空気清浄・防臭装置(2台)、電解水発生装置、消毒用専用スライザー
検査機器:レントゲン装置、自動解析装置付心電計、自動血球分析器、CRP/ASO測定機、自動検尿器、電子スパイロメーター、血糖測定器、経皮酸素分圧モニター、24時間酸素分圧モニター、聴力検査機器、心電図モニター(点滴施行患者さんモニター用)、チンパノメトリー

患者さん 質問箱



Q

私の子供は2歳で保育園に通っています。私たち夫婦はそれぞれ仕事を持っていますので病気のときでも子供の世話をすることが大変です。OCFCでは病児保育を始めたと聞きましたがうちの子供も預かってもらえるのでしょうか。

(そろそろ上司の顔を見たくなくなってきた母)

A

ハイOCFCでは昨年11月から病児保育室を始めました。この事業は大田区からの委託でおこなっています。大田区内に在住の方及び区内の保育施設に通われている区外の方は1日2,500円でお預かりしています。その他の方のご利用はご相談ください。お預かりできる時間は朝8時30分より夕方5時30分までです。0歳から8歳ぐらいまでの乳幼児・学童が対象です。利用にあたっては事前登録が必要です。利用をご希望される保護者の方はまず事前登録してください。クリニック窓口またはホームページで事前登録用紙を受け取ってください。申し込みはご家族の写真も必要なので直接窓口にお申し込みください。

預かる子供になにか条件がありますか。月齢・年齢相当の予防接種がすすんでいることが必要です。特に1歳児での麻疹、それ以降での風疹、水痘、流行性耳下腺炎、流行期でのインフルエンザワクチンは必須です。まだお済でない方はご相談ください。それ以外はありません。

どんな病気でも預かってもらえますか。原則的にはどんな病気でもお預かりいたします。しかし施設としては保育室と隔離室に分かれているだけですので、病気によっては同室できない場合お断りすることがあります。麻疹や水痘、インフルエンザ、嘔吐下痢症の方をお預かりしている場合別の病気の方はお預かりできない場合があります。先に申し込まれた方を優先いたします。

食事はどうなっていますか。保護者の方の持参が原則です。病気にあったお食事をお持ちください。保育室で冷蔵庫保存として、食事時に温めてお出します。ミルクも持参ください。場合によっては保育室で常備しているミルクあるいは離乳食をご利用いただくことも可能です。申し込みの際ご確認ください。

かかりつけ医はOCFCとは関係がない先生ですが。かかりつけ医による差はありません。その先生が預けることが可能と判断し、医師連絡票を書いていただければその場で予約可能です。医師連絡票は保育園、あるいはOCFCHPからダウンロードできます。お申し込みは原則前日8時30分からです。当日定員に満たない場合は当日でもお受けできます。

(OCFC院長)

医療法人社団 オー・シー・エフ・シー (OCFC) 会

OCFC
Okawa Children & Family Clinic
大川こども&内科クリニック

小児科・内科・アレルギー科
併設 病児保育室 うさぎのママ

東京都大田区多摩川1-6-16

院長 大川 洋二

診療時間月～金 午前 8:30～12:00 午後 2:00～6:00
土 午前8:30～12:00 午後 1:00～3:00
(日曜・祝日休診) 駐車場五台あり

予約
専用

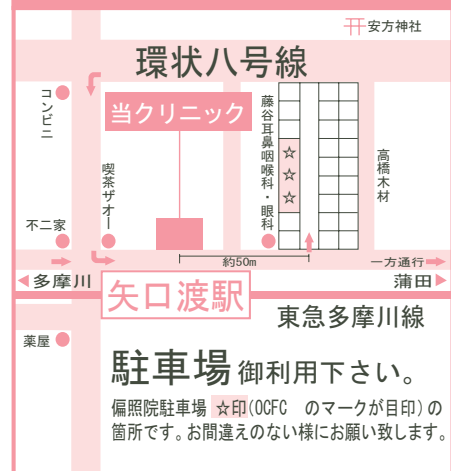
03-3758-0099

代表
番号

03-3758-0920

E-mail: ocfc@jeans.ocn.ne.jp

案内図



東急多摩川線矢口渡駅前